

令和8年度 広域連携型周遊観光モデル構築調査及び戦略策定業務プロポーザル募集に係る質問と回答

No.	項目	質問	回答
1	【仕様書】 周遊ルートの策定について	調査の結果、とっておきエリアを含まない周遊ルートの策定となった場合も問題ないものでしょうか。	調査・分析の結果として、必ずしも「とっておきの京都」エリアを含まない周遊ルートとなること自体は差し支えありません。 ただし、本業務は、京都市内の観光資源と京都府域及び近隣地域の観光コンテンツとの接続可能性を整理し、混雑集中エリアにおける来訪負荷の軽減、来訪促進を図るエリアへの周遊拡大、滞在時間の延伸等につながる広域周遊観光モデルを構築することを目的としています。 そのため、モデルルートの策定に当たっては、「とっておきの京都」に関連する取組を含む既存施策等を整理したうえで、混雑緩和への寄与可能性、来訪促進を図るエリアへの送客可能性、既存施策との連動可能性、実施可能性等を踏まえて検討してください。結果として「とっておきの京都」エリアを含まないルートを提案する場合は、その理由や、京都市にとって望ましい行動変容・滞在分散への寄与について整理してください。
2	【仕様書】 関連情報及び既存施策等の整理について	・関連情報及び既存施策等の整理における、ご提供いただけるかもしれない「人流データ」は、どの程度の期間（例えば半年、1年分、もしくは平日・休日の2日分をサンプルとして使用など）でしょうか？また、エリア範囲はどの程度でしょうか？京都市内全域、京都府内全域など。	仕様書に記載のとおり、人流データについては、委託後、業務実施等に必要と認められる場合に、KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI LocationAnalyzer」により取得・加工されたデータを提供することがあります。 現時点で、提供するデータの期間や対象エリアを一律に定めているものではありません。提供の可否、対象期間、対象エリア、分析粒度等については、受託者決定後、調査設計や仮説検証に必要な内容を踏まえ、協議のうえ決定する想定です。 なお、本業務では、京都市域から市外も含めた広域周遊観光モデルの構築を目的としているため、分析対象としては、京都市内の混雑集中エリア、来訪促進を図るエリアに加え、京都府

			<p>域及び近隣地域の候補地との接続可能性を把握するために必要な範囲を想定しています。</p> <p>提案に当たっては、京都観光総合調査その他の既存調査、公開統計、追加調査等を組み合わせた分析手法をご提案ください。仕様書でも、既存データの活用可能性を十分に検討するとともに、追加調査を実施する場合はその必要性を明確にすることとしています。</p>
3	<p>【仕様書】 ターゲット及び旅行形態の整理</p>	<p>(9) ターゲット及び旅行形態の整理について、ア 国内旅行者及び訪日旅行者について、「訪日」の対象イメージはどこを想定されていますでしょうか？この段で定量的な調査をする場合、日本国内在住者だけでなく、海外の方も対象にする必要があると考えましたので、イメージされている国があれば教えてくださいと有難いです。</p>	<p>現時点で、特定の国・地域をあらかじめ指定するものではありません。</p> <p>仕様書では、ターゲット及び旅行形態の整理において、「国内旅行者及び訪日旅行者の別」を整理することとしており、また、モデルテーマの例として「欧米豪市場等を設定した自然・体験型広域周遊」も挙げています。</p> <p>そのため、訪日旅行者については、京都観光との親和性、広域周遊・自然体験・文化体験等への関心、滞在日数、消費単価、移動特性、リピーター性等を踏まえ、有望と考えられる市場を調査・分析の中で整理してください。</p> <p>定量調査を実施する場合も、必ずしも海外在住者全般を広く対象とする必要はありません。調査目的に照らし、例えば訪日経験者、京都訪問経験者、京都訪問意向者、欧米豪市場等の高関心層など、仮説に応じて対象を設定してください。対象国・地域を絞り込む場合は、その理由と、広域周遊観光モデルとの適合性を示してください。</p>